

1. 事業の目的

本市の小中学校には、樹木のばらつきはあるものの、校門や運動場、敷地外周など多くの樹木が配置され、豊かな緑を形成しており地域の緑を保全する上でも重要な役割を担っている。一方で以下のような問題を抱える学校も多く見受けられる。

- ①古い学校ほど樹木が多く、干渉、過密により樹木が健全な状態にない。
- ②樹木の成長により、隣地への越境や落枝などが発生。

本事業は、長い年月を経て守り育てられた緑を、地域の良好な緑として後世に引き継ぎ、緑豊かな熊本を目指すため学校樹木の適正化に取り組むもの。また、未来を担う子供たちに花や緑への関心を高める取り組み。

2. 前年度（R5年度）の取り組み

➤若葉小学校

サカキを田迎西小学校に移植

ミカンの木を校内の日当たり良好場所に移植

田迎西小学校で学校における緑の授業実施（4年生）

両校の交流と田迎西小学校の緑化推進に取り組む

➤白川小学校

シンボルツリーである大エノキの樹勢回復（土壌改良等）実施

白川小学校における緑の授業実施（4年生）

シンボルツリーである樹齢約150年の大エノキについて樹勢回復のため必要な対策等を検討

➤碩台小学校

過密に生育した樹木や間引きを実施

学校におけるみどりの授業実施（3年生）

児童と一緒に学校樹木について検討



授業の様子



授業の様子



授業の様子

3. 今年度（R6年度）の取り組み予定

92校の小学校と42校の中学校あり

樹木の状態が良くない学校もあることから、教育委員会と連携し対象校選定。今年度実施校は現在協議検討中であり、昨年度同様3校程度を想定。